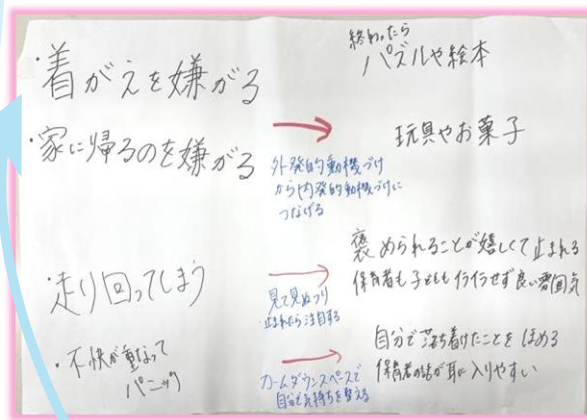
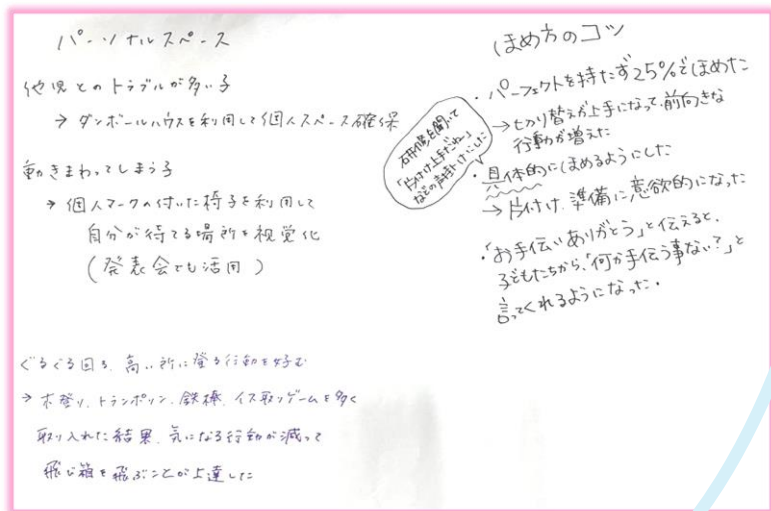
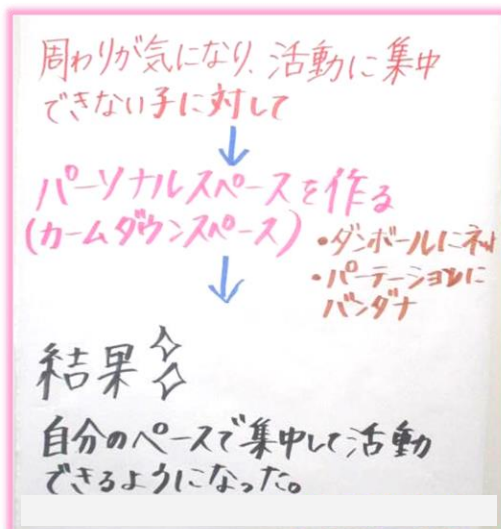
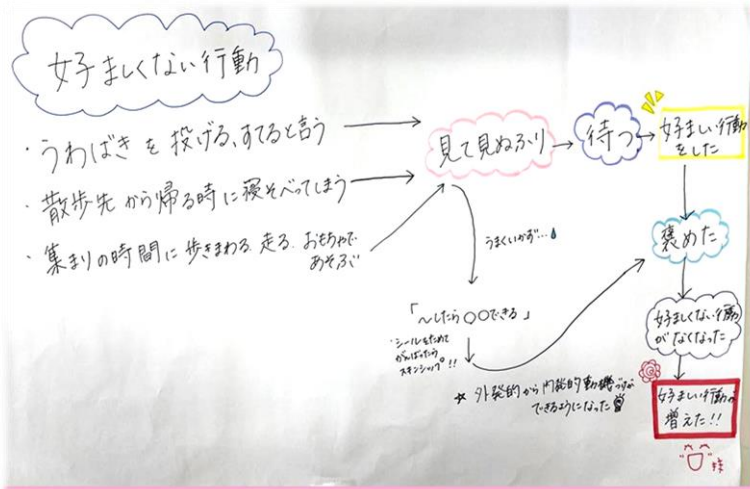
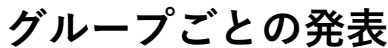


井上綾乃ゼミ通信⑤

令和5年3月7日(火) 保育センター発行

2/7(火)に第5回井上綾乃保育ゼミ(最終回)が開催されました。
これまでの4回のゼミでの学びを、どのように活かし、どのような変化が見られたか、参加した先生方の実践発表をもとにした講義となりました。発表内容はどのグループも支援を論理的に考え、まとめた物となっていますので、ぜひご覧ください。



好ましくない行動の原因に

見当を付け、支援をロジカルに考えるのが◎

「チラッとこちらを見ながらやっているという事は…」

感覚が原因ではなさそう。それなら注目行動かな？

「じゃあ見て見ぬふいを試してみよう。」

このように消去法で考えましょう。見当が外れた時は、
また別の原因を考え、それに合う支援を模索して
いけば良いのです。

100%上手いいかなくても大丈夫です。

着替えなどを楽しくする工夫は

社会モデルなので◎

その工夫に「お着替えあっぷっぷ ♪」等、

オシャレなネーミングを付け、次の

誘導に繋がると、もっと◎！



鈍感

- 室内を走り回る
- 高い所に登る
- イスに座れない

↓ 支援

- トランポリン・室内アスレチック
- にぎにぎボール・箱(段ボールハウス)
- 毛布・絵カード

↓ 結果

- 重さが制限できるようになった
- 感覚が研ぎ立てられて落ち着いた

敏感

- 床にゴロゴロ寝ころがる…前庭感覚
- 水遊びを嫌がる(ぬれること)
- わん工遊び

↓ 支援

- 段階を踏んで徐々に感覚に慣れるようにしていく
- 安全にゴロゴロできるスペース
- 直接ではなく道具を使用する

↓ 結果

- 負担が減り安定して過ごせる
- 段階を踏んだことで水遊び・わん工ができるようになった

<ワーキングメモリ>

荷物の準備× → 絵カードを作る → 進んで始める
(2才児) できたシール

(5才児) 1日の流れを説明しても 1つずつ指示を伝える。
情報量が多いため理解が難しい → 簡潔に伝える。

(5才児) いつまで何をすれば良いか → タイムタイマーを使用し、視覚と聴覚で知らせる。
理解が難しい

<社会モデル>

イスの高さ× → 牛乳パックで → 安定して座る
(2才児) 台を作った

コミュニケーションを取る事が苦手な子(アレキサンダー・ウィリアムズ) その子に対してイラストと言葉カードを使って場所などでも思いを伝えられるようになった。

食事時の姿勢× → 背もたれの無い箱イスに
(4才児) しなら安定するようになった。

感覚あそびをするのはなぜ？

「触る事」自体が大切なのではなく、目的は触る経験を積み、触らなくても感覚を想像できるようになることで「安心して過ごせるようになる」事です。
本質を見抜くのが大切です！

椅子に座れない時に、
その子が座れるような椅子を提供する。
当たり前を当たり前としない、
柔軟な思考が◎

敏感な子が
やりたいと思った時に
やる事ができる環境を
用意しているのが◎

コミュニケーションは
言葉ではありません。
合わせられる方が
合わせるのが支援です。
「話すこと」より「伝えようとする
気持ち」を育てましょう。



子どもの行動には必ず理由があります。その理由にアプローチしていきましょう。

保護者の方に伝えたいときは、保護者の目の前で子どもへのアプローチを行い

子どもの行動が変わる様子を実際に見てもらうことが効果的です。

自立課題のご紹介

物で遊べない子には
ひとりで集中して遊べる環境に
興味に合ったものを用意してあげましょう。



コインスピナー



小さな製氷器と
固めのスライム



ボールペンの組み立て



カードと洗濯ばさみを分別して
プットイン



錠付きの箱と
たくさんの鍵(ダミーの中に本物1つ)



光るハンスピナー

学んだ事を園に広める取り組み

実践をまとめたレポートの活用

ほんちょう保育園 市之瀬先生

【どのように？】

「褒めるに繋がる見て見ぬふり」を実践している
様子の写真に解説を加えてレポートを作成し、会
議で他クラス職員へ周知しました。保護者に対し
ても、園でどのような支援をしているのかを具体
的に伝えました。

園内研修の実施

諏訪ひかり保育園 仲澤先生

【どのように？】

「ペアレントトレーニング」をテーマに、
ゼミでの資料を基に園内研修用の資料を
作成し伝えました。グループワークも行
い、実践に活かせるような形で研修を行
いました。

全5回のゼミをとおり、支援するという事は、環境や意識をいかにその子に合うように整えられるかだという事に気付くことができました。参加された先生方がどのように実践に繋げているのかも聞くことができ、毎回開催するのがとても楽しみでした。参加された先生方が発達支援において、園の中で中心となっただき、各園で発達支援が展開されることを願っております。一年間、ありがとうございました。

和光市保育センター 保育士 市田明絵